

令和4年度 栗東市立図書館基本的運営方針に定める目標値に対する評価一覧

目標項目	令和3年度 (計画策定年)	現在値 (令和4年度)	目標値 (令和4年度)	目標値 (令和8年度)	方針での 該当箇所	重点取組項目	課題・問題等	自己 評価	外部 評価	外部の意見 (修正案)
1 図書館実利用率	15.9%	15.9% (92%)	17%	22.0%	①②	新規転入者への利用案内配布の拡大 市民のニーズにあわせた資料選定の実施 市民に興味を持ってもらえる各種行事の実施	引き続き、ニーズにあわせた資料の 選定を行うとともに、非来館者にPRで きる事業や、より効果的な広報活動 を行う必要がある。	2	3	目標値には届かなかったが、前年度を下回ることなく目標の92%の図書館実利用率を達成することができた。コロナが利用者の図書館離れに大きく影響するなか、前年度と同レベルの実績が維持できたことは評価できる。 ただし、本館は市民が非常に訪れにくい立地である。実利用率のさらなる拡大を疎外している要因として、図書館の立地面の課題も大きいのではないかと。今後は、市民が図書館にアクセスしやすい環境づくりとして、「乗り物難民」向けの対策も課題のひとつとして捉えた対応が必要である。
2 年間貸出冊数	532,651冊	499,156冊 (93%)	535,000冊	560,000冊	①②	魅力ある蔵書構成となるような資料の選定の 実施	蔵書自体をより魅力あるものにして いくと同時に、図書館に行きたいと思 わせる雰囲気づくりや、読みたい本と の出会いがある本の展示を行う必要 がある。	2	3	目標値には届かなかったが、コロナによる図書館サービスへの影響が様々あるなかで、目標の93%の年間貸出冊数を達成できたことは、魅力ある蔵書を構築するため年度当初から取り組んだ、資料選定方法の見直しや所蔵する資料をひろく市民に紹介するきめ細かな資料展示の実施が効果があったものと認められ評価できる。 さらに、より便利に図書館を利用できる方法として、インターネット予約の広報の強化とともに、QRコードの活用など、より手軽に図書館サービスが使えるような工夫を積極的に行う必要がある。今後はコロナの影響が下火になっていくことが予想され、開架閲覧室の書架、家具等の配置の見直し、取組み行事の拡大など、社会情勢を見据えながら、利用しやすい図書館づくりを進めることが望まれる。
3 市民一人当たりの年間貸出冊数	7.6冊	7.1冊 (93%)	7.6冊	8.0冊	①②	展示等による図書館蔵書資料の紹介事業の 強化	自ら本を探る利用者が探しやすいよ う、サイン等の工夫を必要がある。	2	3	
4 12歳以下市民一人当たりの 児童書年間貸出冊数	21.0冊	19.6冊 (91%)	21.5冊	23.5冊	③⑤	西館児童コーナーのリニューアル、乳幼児向 け会議室開放の開始	来館経験の少ない子どもの来館の きっかけとなるような魅力的な行事を 実施する必要がある。	2	3	幼稚園を対象とした移動図書館の巡回を開始した取組みは高く評価できる。今後は訪問先の拡大に取り組むとともに、過去に実施していた専用車による移動図書館巡回サービスの復活が大いに望まれる。 また、児童館でのPRや乳幼児向けの会議室開放なども良い取組みであると評価できる。さらに、子どもやその母親世代が行きやすい雰囲気、行きたいと思う仕掛けづくりを意識したサービスのあり方を検討してほしい。 YAコーナーは、利用対象世代の子どもたちの利用が増えるよう、コーナーを知るきっかけ作りや周知の方法についても検討を行ってほしい。
5 15歳以下の貸出カード登録率	65.9%	64.1% (95.5%)	67.1%	72.0%	③⑤	児童館の講座等を通した利用啓発 幼稚園を対象とした移動図書館の開始	移動図書館の訪問先を拡大していく 必要がある。	2	3	
6 障がい者サービス利用人数	13人	11人 (79%)	14人	20人	①② ⑤⑥	サービス対象者への広報の拡大	必要な人にサービスの情報が届くよ う、福祉担当課との連携を深めてい く必要がある。 音訳図書へのアクセス環境が変わる 中、障がい者サービスの在り方を考 えていく必要がある。	2	2	「基本的運営方針に定める目標値」がそれほど高い数値目標ではないにもかかわらず、年度目標を達成できなかった点は大きな課題である。 当面のサービス対象者を誰に設定するのか、を含め、具体的な障害者サービスのあり方、サービス対象者への広報のあり方等についてのさらなる検討が求められる。
7 年間蔵書購入冊数	9,645冊	10,041冊 (91%)	11,000冊	11,000冊	①②④	購入計画に基づいた選定、購入の実施	出版状況の変化に応じ、計画を見直 しながら、適正な資料購入を行う必要 がある。図書価格の上昇により、資 料費の見直しが必要である。	2	3	購入計画に基づき計画どおりに図書の購入がすすめられている。 将来的な課題として、現在は児童書の購入に「小林児童文庫基金」が活用できているが、基金活用が終了以降も計画的な購入が維持、継続できるよう考えておく必要がある。
8 司書有資格者の割合	100%	100%	100%	100%	①②	司書によるレファレンス等の実施 「なぜ図書館に司書が必要か」利用者の認知 度を高めるための取組みを強化	引き続き、司書によるレファレンス 等、司書のはたらきについて知って もらい、認知度を高めていく必要が ある。	3	4	市の財政状況もあり、図書館の運営体制の維持、継続が厳しい中、司書有資格職員を計画どおり100%確保できている点は高く評価でき、今後もこの職員体制が継続されることが望まれる。 レファレンス業務における司書有資格職員の専門的能力の高さを市民に広く知ってもらうためにも、レファレンス回答記録の公開をもっと積極的に行うとともに、図書館には司書有資格職員が必要であることを積極的にアピールし、司書の認知度を高める取組みが必要である。
9 郷土資料の収集冊数	188冊	355冊	—	—	④	森田まさのリコーナーを設置して191冊を収集 郷土コーナーに164冊を収集 市役所各課への資料提供依頼の強化 各種出版情報のきめ細かな収集	必要な資料を収集できるよう、引き続 き、市役所内への資料提供依頼や、 出版情報の収集を行う。	3	3	市役所各課への資料提供依頼の強化、郷土出身者に関する資料収集も積極的に取り組むことができ、確実に郷土資料収集冊数の増加が図れた点は評価できる。令和5年度以降も今年度同様、着実な郷土資料収集に取り組むことが求められる。 また、郷土資料については、紙媒体の資料収集だけでなく、いずれはデジタル化された資料の収集が必要になってくる。その時期を見越した積極的な情報収集に取り組んでほしい。

項目9については、目標値に含まれてはいないが、基本的運営方針項目の評価数値として列記している。

現在値の下のカッコ内の数値は、目標値の対する達成率

方針での該当箇所は下記の栗東市立図書館基本的運営方針の基本運営方針6項目

- ①市民一人ひとりの自主的な生涯学習を支えます
- ②暮らしや仕事の課題解決を支援します
- ③学校、家庭、地域と連携して子どもの読書活動を推進します
- ④郷土の歴史や行政資料を収集、保存、提供します
- ⑤市民との協働により、図書館運営や活動の充実に努めます
- ⑥図書館利用が困難な人を支援します



本方針は、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の17のゴールのうち1つのゴール(4)と強い関連性を持ちます。

評価基準

5	当初設定した目標を著しく上回る成果をもって達成
4	当初設定した目標を上回る成果をもって達成
3	当初設定した目標を概ね計画どおりに達成
2	当初設定した目標を未達成
1	当初設定した目標を著しく未達成